

---

## 編集後記

---

時々校正をさせていただく程度の、あまり役に立っていない名ばかりの広報委員の私、それでも毎回でき上がった会誌を前に“こんなに素敵に格調高くでき上がった！”と、感激しています。同じ原稿でも出版社のセンスでこんなにも変わるものと感心し、校正の原稿を、そのまま送り返しても決して“ばれる”ことはないほど完璧なゲラを送っていただいている三秀舎の皆様にもいつも感謝しています。催促があってからしか原稿の書けないとんでもない性格の私には、膨大な原稿を期日に送ってくださる執筆者の皆様には、ただただ敬意を表するばかりです。

診療報酬改定から3カ月、もう工夫の仕様のないと思われるこの度の改定、それでも各透析施設では様々な経費節減の工夫がなされ、巷のうわさではEPOの使用量が減少したとも聞こえて来ます。方向性を見極める力も、経営感覚も持ち合わせていない人間が、おちょこちょいにもこの時期に理想を振りかざして透析施設を開院してしまった事をひたすら後悔しながら、しかし毎度のことながら、あまりにも敏感かつ早急な透析施設の経営努力に驚いています。もちろん私が言うことではないでしょうが、人工腎臓の点数に包括化されてしまったEPO製剤に関する減量への工夫はやめにしませんか！ どの施設もせめてEPOだけは次の改定まで今までどうり使いましょう！ 中井先生があればほどのエネルギーを使って裁判をし、勝ち取ったEPO製剤への見解、必要な分だけ使おうではありませんか！ 無理をして、いろいろ工夫して、EPOの使用量を減らしても次の改定では必ずその分、点数が減ることは想像に難くありません。診療報酬が変わったのだから仕方がないと不利益を患者さんに押し付けるのではなく、みんなで踏ん張りたいたいものです。透析医療ほど診療報酬の改定のたびに診療内容が変わる分野はないと常々残念に思っています。検査が“丸め”になったら検査センターがつぶれるぐらい検査が少なくなった、時間枠がなくなったとたんに短時間透析になったetc. 今、透析医療が出来高で請求できた時代を懐かしむとともに、“丸め”になったからといって医療の質の低下につながることは免れたいと強く思っています。近くの病院でもこの7月から夜間透析が中止になりました。一兆円枠があるから今後も医療費改定のたびに切り下げはやむを得ないと許容しなければならないのでしょうか。今までの経緯からすれば経営努力をしたぶん、間違いなく次の改定で切り下げられてきて、かえって自分たちの首を絞める結果になっています。私たちの努力の方向は本当にこれでよいのかと疑問に思う今日この頃です。

これって編集後記とは程遠い文章ですね！ 本当にごめんなさい。やっぱり広報委員失格です。

広報委員会委員 坂井瑠実